芭蕉翁全傳

土芳真筆之寫

田人筆

特別
へ5
6228

寫

文化元年十二月五日

蒹蟲翁直筆之寫

蒹翁全傳 秘書

京 言叶 大坂 清生 江戸 尾州 東 神菴曰人寫之

芝蘭翁

人王傳 稲垣 芝林舍

59-11806

芭蕉翁伝

極秘伝

川崎文庫

芭蕉翁直筆之寫　出芳し

芭蕉翁桃青先生ハ元此国ノ生ニテ松尾氏忠右衛門ト云佐官ニ退テ後長七ト改メ剃髪ヒツヒニ取テ洛北村孝時老ニヨリ

御法ヲ受ケ二宗匠トヤ呼ル年久シ寛文十二子春ホ氏ニヨリ名ヲ桃青ト云其住居ハ小田原町後沼川ノ深川ニ芭蕉ヲウヘシ故庵トヒラスト是ヨリ名ヲ芭蕉人モテハヤシ

田原町ヒロスニヤ世上弧法ヲシ乱テ名ヲ談林風ト云

アリ此時モ先生ハ人ノ毫ニ等時ノ感ヲ有リ半四生

詠ウトテ延宝四辛長夏猛立出テ途中ニ宿ス所有

山のすゝく蛍の光日の影

六月廿日ばせを三入テ親族旧友送ヒ来リシハラク京ニモ立戻

又ゝ戻リ文月二日武江ニ帰ル　○栗老氏伊賀ノ俗ニ逸ニ属ス

其ノ方ニ住ス有リ　詠ル江ニ入ハ入れる山の月　○ゑる畑氏

市隠ニテ高山有リ　月ハ山の奥や海ゆるのやうに出る

出羽氏半蔵ニ歌仙有リ　百里程ゝ行ハ雲井の下涼

世ノ風葉流ニ入テ涼　先生深ク是ヲ歌シテヨリ

工夫ノ枕ニ臥終ニ正風実神ノ眼ヲ明ラカニ知リ世ノ人ノ実ヲ

見知ラス且悔ミ且恨ムリ日ヨリ道世ニ山野ノ家トナシ旅ヨリ

旅ニ行末ノ定メス中モ吉野ノ桜ニ広原ノ時ノ移ルヲ出ラレシ

ハ著ノ水ハ澄テ中ニ月ヲ宿スキ先無ラシメテ松島高野ノ思ヒ立ル

ヨリ伊勢ノ四方ヲモ住捨テ無住ノ所到ル　明君ハ之禄厚

松山ハ己ノ身ニ人ニシテ人ヲウリ改ル所ノ流ハ江戸集ト云ヒ所リ是ノ日猿蓑

炭俵猿蓑十ト云有リ手ニ自然ノ変化ヲ見スルモノカ

延宝後ハ文面ノミ絶テ又貞享之些ニ居リ其後八行脚ノ杖ク宜
敷ニ脱杖ヲ休メ風雲ノ力ニ付テ四方ニ多ク之詠歌ノ秋雑波ニ
行トテ出ラレシハ此境別納シ且ハ百瓜十軒ヲ言ハ書ス
玉ヲ拾ハ家ニ帰リテ今ハ在ノ記之ト云
〇貞享元年子ノ冬ヨリ翌年遍歩 九月八日ノ夜庭田ノ沢ヨリ出ル
脇月廿五日ノ夜又ハ不二ニ入テ四年目ノ吟アリ
〇同二年丑ノ年二月下旬ヨリ遍歩 二月中旬ヨリ新
ノ句ヲ吟ジテ在京ス 京ニ行 三井秋風ノ別野ニ花
大雲ニ居リ所生中ヨリ又ナヲヤニ出ラル
改且一派ノ望ヲ歩リ
海負ふ[illegible]の年

一まの日ヨリ郡(りんなもとの)孤鳥古巣ハ梅ノ花
ハ白ク紅梅ハ新春ニ三梅ノ匂ヒ
一命二ツ中ヨリ出ル
足ハ水ニ三ヲ出サ玉ニ玉ル
ハ白ク紅ヲ出ラレ
ハ白ク紅ヲ出ラレ
ハ白ク紅ヲ出ラレ

[illegible]代々の賢人、も古人ハ志ハ[illegible]我今ハ[illegible]
四とセるとてゐるこゝロケテモ昔ノ十ソウシキ、ニハウヤラノアヘメヨハヒトメ
フキテイルモ又[illegible]ニテ[illegible]ノ[illegible]
テ[illegible]ヲ未伊賀ノ山中ニ至ル[illegible]
思ウるのミ又ヒトリテ[illegible]

三月ヒ十日初ヒより　三條之三改る

同　三年辰ノ三月　中旬と道当

[illegible]社ハ名ノ市菊と及道当スル。大和ノ田ヲ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ヲ市菊ヲ供ノニテ往[illegible]
[illegible]ヨリ二人去ル[illegible]
[illegible]ヨリ市菊京[illegible]
奈良に行ノヒテ[illegible]アリ是ヨリ市菊ト二人[illegible]
昔ヨリ[illegible]ヨリ[illegible]ヨリ[illegible]
是モ[illegible]

○元日[illegible]
[illegible]

○[illegible]
[illegible]

○[illegible]
[illegible]

○

[illegible]
又まりやアリテ東ニ別ニ[illegible]
ヨリ海道ニシ供ニテ川あるこに出うし沙[illegible]
スカ[illegible]
[illegible]
アトヨリト川[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みれとも深雪埋もれんとす
花を求て猶雪をかきわけ
くるのみ也

〈蕉翁金沢にて句碑あり保年間建立
仰日金山川の一段低屋敷し中比の洪
水にて流る其後再建し文政年間板橋
命法其次いすれも流し天保元甲申年
板の橋を造る幼弱の時分花堂主計良忠
他を呼し堂を作板を葺七間又巡り
間拵る高欄貴賤人の屋敷
新たに拵る事無文の
ものハ是を
ものの例ものとも
る負る者なる人の中に

人の面々にて初月世を高く
仰ぎ
碑吟
碑吟
碑吟

所の人なれとも洪水の内
ならて面白いやうやうの
所の新法師のこころ
ゆきもいまい事なりい
るよのなかもなかりけり
流られるものの心
俳句にて
実相寺
上人
日出るこのれとものけて四代の
水行ハ次の中心のうるる
月もさす家人のあるこるる
歌をる
ものの
あちこちやいとさ
ちはすもりやとき
るる
秋や空
ハ
花
五月四日

かくて陳作王世の後安之士子の
東武を恋くはなくちの千へ当る
雪とへくらるるや月のいさを
そひくらるる月新しく祈りて
見おろひくるる

一書三十首の中
きてもまよ島べの月ぬれもこそ
めかさ舞や毛ゝ毛ゝ物をて毛ゝ
かゝる俤の歳

伊勢人ノ云伝ニつちくるとハ云リ
巳人ノ
土業ハナルベシ
云ノ字イカヽ

雅名 業異ト言フ雅楽ハ
物を
仕へて
ものゆまい

庭洲注平流
猫の声
一九

巳人ノ

道修町 業居伏見
中陸注一図 三回
雪中蕎麦 成 月
例の多 花ルへ
多之の物て猫の
日は秋陸
蕎麦 平 甲

大阪 注 京や 高 日 稲荷 寺 京や 郭
注 表陸 多 知
尾州 藤田宮 藤田八 高
悠然 之道 て州

山田圖書　井伊掃部頭

平岡伯耆守

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

外

伊賀聞

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

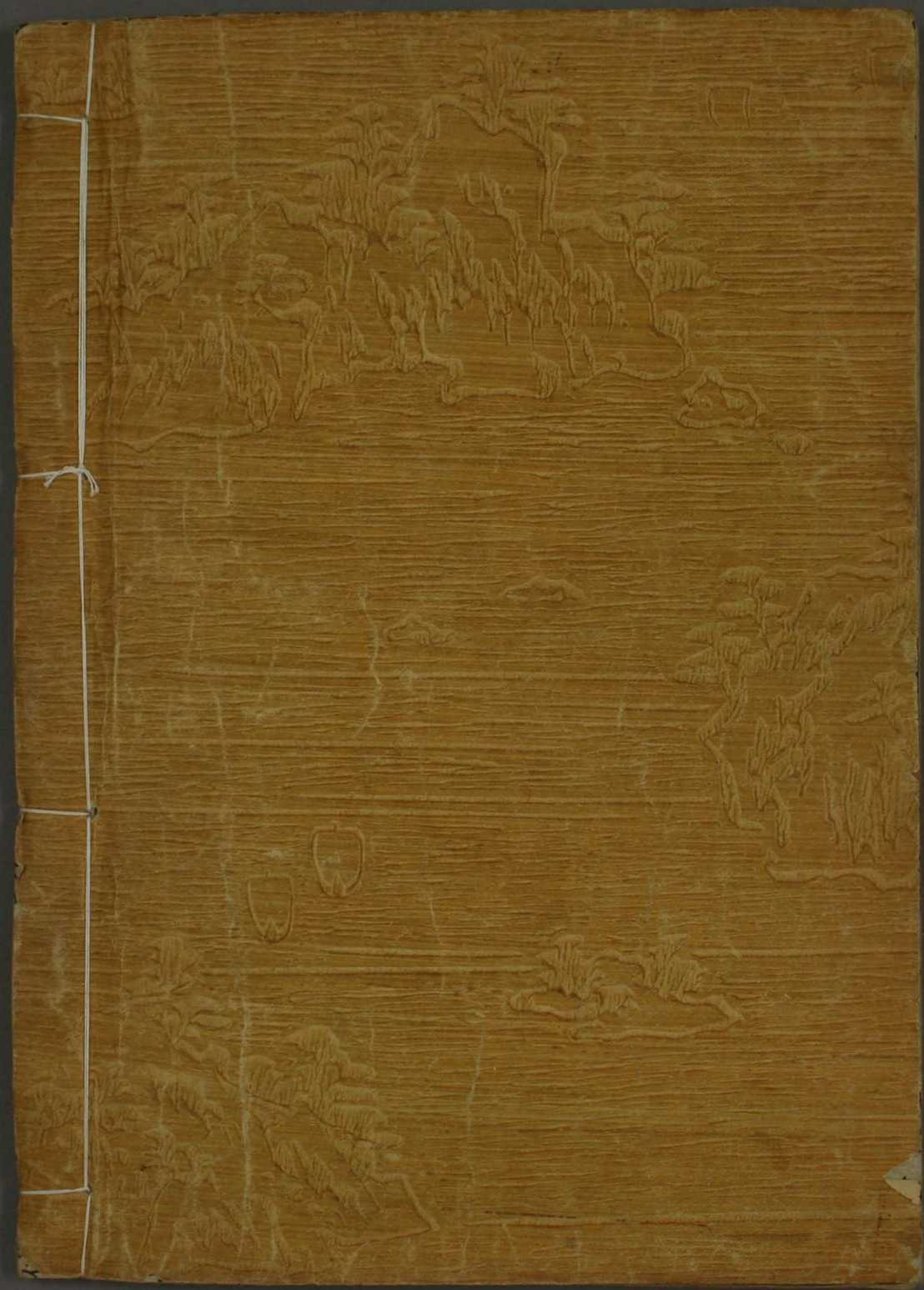
某 [illegible] 伊勢国桑名郡

[illegible]

[illegible] 杉屋半左衛門 外

[illegible] 又兵

[illegible]

[illegible]

[illegible]